



ヘルメット着用の必要性をデータで裏付け

## 【自転車事故による救急統計について】

郡山地方広域消防組合管内では、過去5年間（2018年（平成30年）から2022年（令和4年まで）に1,174人が自転車乗車中の交通事故により救急搬送されています。

これらの救急事案における外傷部位を分類すると、「頭部（頸部・顔面を含む）」が最も多く397人（33.8%）となっており、また入院が必要な中等症以上の症状となった人も頭部を受傷したケースで最も多いことが分かります。これらのことから、万が一事故に遭った際に頭部を保護するためのヘルメット着用の必要性は高く、予防救急の観点からもヘルメット着用を促進する必要があるため、以下のとおり救急統計をまとめましたのでお知らせします。

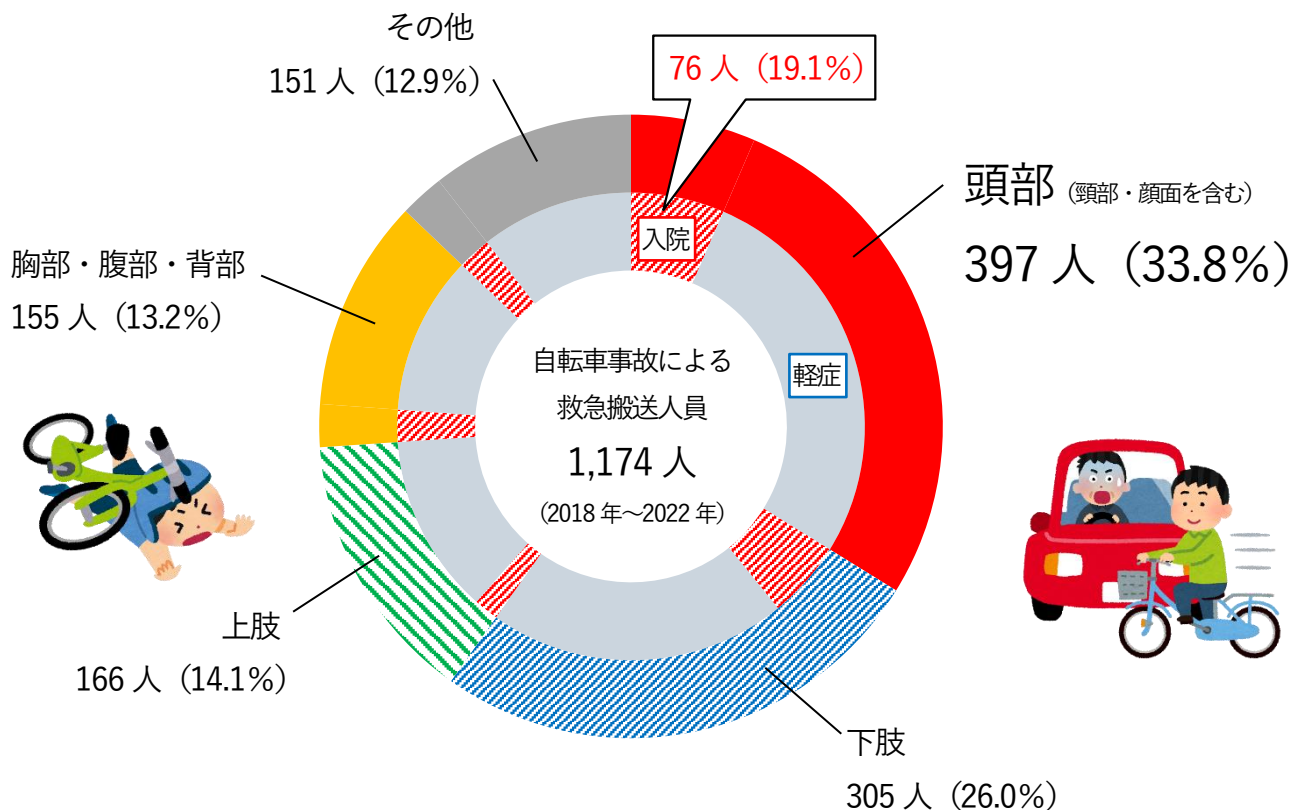
※ 救急搬送人員は、現場処置等により不搬送となった者を含む。

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値で表記しています。

### 1 外傷部位別の救急搬送人員と傷病程度

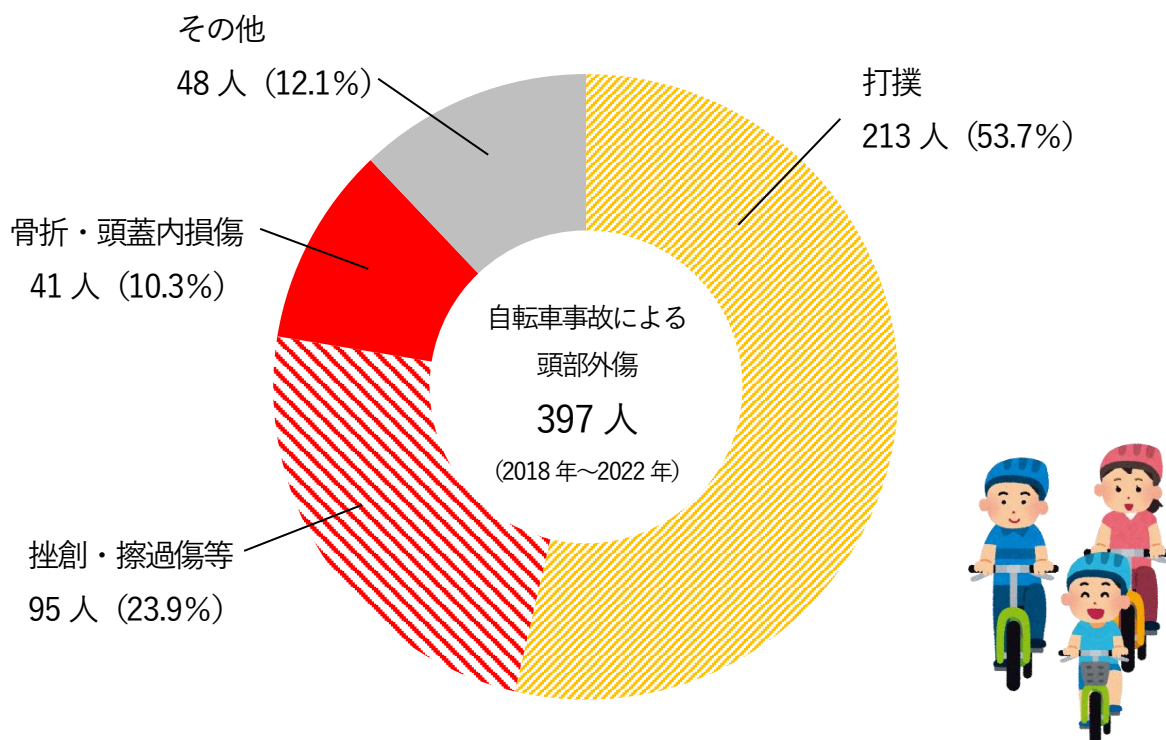
自転車事故による怪我を外傷部位別にみると「頭部（頸部・顔面を含む）」が最も多く、397人（33.8%）、次いで「下肢」が305人（26.0%）、「上肢」が166人（14.1%）と続きます。

また、各分類の入院が必要な中等症以上の症状でも、「頭部」が最も多く76人（19.1%）となっています。



## 2 頭部外傷における症状別の救急搬送人員

頭部外傷 397 人を主な症状別に分類すると、「打撲」が最も多く 213 人 (53.7%)、次いで「挫創・擦過傷等」が 95 人 (23.9%)、「骨折・頭蓋内損傷」が 41 人 (10.3%) と続きます。



## 3 予防救急のために自転車利用時はヘルメット着用を！

統計結果から、自転車利用中の怪我で最も多いのは「頭部」の怪我であることが分かりました。また、怪我の症状をみると、入院が必要な重症度の高いもの以外にも、打撲や挫創・擦過傷等、ヘルメット着用によって防げた可能のある怪我也多いことから、スポーツ競技実施時だけでなく、通勤・通学・買い物等の日常的な利用時にもヘルメットを着用し、頭部を保護することが予防救急の観点から重要です。

